

## 12/2 着実な行財政改革の推進を

市の行財政改革の進め方などを協議する行財政集中改革プラン推進委員会が市役所で行われました。委員会では、前回(6月5日)の会議を踏まえ、新行財政集中改革プランにおける数値目標(縮減効果額および収入増加額など)を精査、追加し、これまでの1億8千万円から26億8千万円とする案を説明しました。



## 12/2 災害時の迅速な情報提供のために

市と酒田エフエム放送株式会社との間で、災害時の放送要請に関する協定が締結されました。これにより、災害時、市が臨時災害放送局を開設し、同社の運営するハーバーラジオと連携し、災害に関する情報を市民に提供します。

# Zoom Up

ズームアップ!さかた  
私の街さかた。あの日あの時。

## 12/6 中学校の音楽教育に活用

花王(株)酒田工場(工場長 谷本均氏)から9月に開催された花王ファミリーコンサートのチケット収入の全額が寄付されました。この寄付は平成16年から続いているもので、この日、村上教育長と第二・松山・飛鳥の各中学校の吹奏楽部の代表が受け取りました。



## 12/10 早期復旧を要望

本間市長(庄内開発協議会副会長)と本多市議会議長は、JR東日本仙台支社および山形県庁を訪れ、土砂流入などのため運転を見合わせている陸羽西線の古口~清川間の早期復旧と情報提供などの要望を行いました(写真は山形県企画振興部長への要望の様子)。

## 12/7 世界にはばたけ

今年で16回目となる中学生海外派遣事業「はばたき」の報告会が総合文化センターで行われました。アメリカ合衆国を訪問した中学生24人が、オハイオ州デラウェア市のデンプシー中学校体験入学やホームステイの思い出などを報告しました。



## 12/15 鳥海の里に息づく伝承の舞

第1回八幡民俗芸能公演会が八幡タウンセンターで開催されました。獅子舞、神楽、天狗舞や、招待団体の伝統芸能が披露され、観客から惜しみない拍手が送られました。



## 12/15 地産地消で地域活性化を

地元の産品・製品の消費拡大を目的にした第7回バイさかた市がマリン5清水屋で開催され、17の企業・団体などが出店。新米つや姫や産直施設による農産物加工品など酒田の美味しいものが勢ぞろいし、多くの買い物客でにぎわいました。



### 取材ノートから

取材で感じることは「馬には乗ってみよ人には添うてみよ」。今年は率先して取材に出よう(す) ▶酒田舞娘の新人らしからぬプロ意識に触れ、身が引き締まる思い。今一度初心に立ち返り、いざ新年(ま) ▶表紙写真の撮影時、郡鏡先人わら工房の方の伝統技、職人技に感心。幸多き一年になりますように(お) ▶取材を通して「百聞は一見に如かず」を実感。これから出会う、まだ見ぬ酒田の魅力にわくわく(み)



## 11/26 誘致企業(株)プレステージ・インターナショナル「山形BPOガーデン」竣工

京田西工業団地に建設していた、(株)プレステージ・インターナショナルの山形BPOガーデンが完成し、竣工式が行われました。式典では玉上社長があいさつし、吉村県知事、本間市長などが祝辞を述べました。4月には社員約250人体制を計画しており、今後、庄内地域の雇用拡大が期待されます。



## 11/28 お疲れさまでした

2期8年間にわたり、教育委員会教育長を務めた石川翼久氏が退任しました。多くの職員に見送られ、石川氏は中町庁舎を後にしました。



## 11/28 工事の安全を祈願して

本格的な着工に先立ち、新庁舎建設現場で市庁舎改築工事安全祈願祭が行われました。関係者など約100人が出席し、工事の安全を祈願しました。



## 11/28 酒田港のさらなる発展に期待

酒田北港高砂ふ頭において、酒田港国際ターミナル 第2号コンテナクレーン竣工式が行われました。年々その重要性を増す酒田港ですが、今回の第2号クレーンの整備により、港湾機能の信頼性や利便性が高まり、一層の飛躍が期待されます。



## 11/29 庄内北部定住自立圏形成に向けて

酒田市、三川町、庄内町、遊佐町の首長が一堂に会し、庄内北部定住自立圏形成市長・町長会議が市役所で行われました。住民の皆さんが将来にわたって安心して住み続けることができる地域づくりに向けて、連携して定住自立圏形成に取り組むことを確認しました。



## 12/1 ふるさと酒田を思って

首都圏在住の本市出身者などで構成するふるさと会、ふれあい酒田の第16回総会が、友好都市である東京都北区の北トピアを会場に開催されました。同時開催のふれあい酒田DAYでは、酒田の特産品の販売やさまざまなイベントを通して北区の皆さんと交流しました。

## 12/2 地下道を彩る癒しの絵

酒田駅前と駅東を結ぶ地下道にアートギャラリーが開設され、地下道を通る人の心を和ませています。飾られている絵は酒田飽海地区の中学生と高校生が描いたもので、地下道の安全と青少年の健全育成を目的に毎年展示しています。

